

県内ラグビー公式戦から100周年

秋田でもW杯を

日本協会 土田会長(秋田工出身)講演



本県でラグビーの試合が初めて行われて100周年を祝った式典

秋田市で式典

ラグビー協会の主催

1923(大正12)年に県内で初めてラグビー公式戦が行われて100周年となるのを記念した講演会と式典が20日、秋田市内で開かれた。日本ラグビー協会の土田雅人会長(秋田工出身)が「もう一度ワールドカップ(W杯)を日本へ」と題して講演し、関係者が本県ラグビーのさらなる発展を期した。県ラグビー協会



講演で中高生の質問に答える土田会長

同市のきわい交流館で行った講演会には、県内でラグビーをして一番良かったことをする中高生や県協会とは「聞いた問いに「練習」「小林」社会福祉法人明和の理事長。土田会長は「地位、情熱、結果、規律、尊重」がラグビーの魅力の根底にあると強調。リーグワンの入場者数が2010年W杯日本大会を機に増えているとし、「今後は育成年代の環境を整え、31年には世界のトップ4を目指す」と話した。19年に引き続き、35年にW杯を再び日本に招きたい考えを示した。「秋田でも開催したい。この会場にいる中高生が代表のシャージャを着て走る姿を期待している」と語った。最後には質問コーナーも設けられ、中高生の「初

起源は「秋田運動俱——鉾専」

本県ラグビー

本県のラグビーの歴史は1923(大正12)年、有志が仲間を募り立ち上げた2チームの試合を皮切りに始まった。秋田工高の全国制覇15回の記録はいまだ破られず、「ラグビー王国」の名を広めた。100年の歩みを振り返る。23年春、秋田運動倶楽部と秋田鉾山専門学校(現秋田大)の有志がそれぞれ楢岡のボールでキック、パスの練習を始めた。両チームは9月に秋田市の楢山グラウンドで試合を行い、23-0で秋田鉾山が勝利。ここから100年の歴史が動いた。

両チームが県内各地でラグビーを広め、24年に秋田中(現秋田高)、25年に秋田工業学校(現秋田高)にラグビー部が誕生した。秋田工業学校は30年に全国大会に初出場し、1回戦で敗退。34年、5度目の挑戦で全国初優勝を遂げ、黄金期が始まる。秋田工業学校は秋田工高となつてからも、堅実なプレーと鋭いタックルを武器に度々全国の頂点に立った。48、50年には3連覇。85年に16大会ぶりに優勝。88年に15度目の栄冠に輝いた。しかしそれ以降は、頂点から遠ざかる。県内他校は打倒秋田工を掲げて実力を伸ばし、秋田中央高が12回、金足

秋田工、全国V15回／日本代表も数多く

県内ラグビーの歩み

1923(年)	秋田運動倶楽部、秋田鉾山専門学校(現・秋田大)の有志がそれぞれラグビーを始める。9月に両チームが県内初の公式戦。秋田鉾専23-0秋田運動倶
1930	全国中等学校蹴球大会(現・高校大会)に秋田工業学校(現・秋田工高)が初出場
1934	全国中等学校蹴球大会で秋田工が初優勝
1958	秋田市役所ラグビー部が発足
1978	秋田市役所が全国社会人大会に初出場、8強入り
1987	秋田市役所が新日鉄釜石を破り全国社会人大会へ、8強入り
1988	秋田工が全国高校大会で全国最多15度目の優勝
2004	秋田市役所を母体に社会人チームの秋田ノーザンブレッツが誕生
2007	本県開催の秋田わか杉国体で成年男子が初優勝。少年男子は準優勝
2010	全国中学生ラグビー第1回大会で秋田北が初代王者に
2021	秋田ノーザンブレッツがトップイーストリーグBで優勝、入れ替え戦を制してリーグA昇格

豊高、秋田高が各6回、男児土高が4回、全国大会へ出場している。社会人の秋田市役所の存在も、本県の強さを印象づけた。全国社会人大会に8度出場し、最高成績は8強が4回。日本選手権8度優勝の新日鉄釜石(釜石)には東北大会で苦杯を喫い続けたが、87年に勝利。招待試合などでも全国の強豪と競った。2004年、クラブチームの秋田ノーザンブレッツ(NB)に生まれ変わり、07年の秋田わか杉国体では成年男子チームの主体として優勝に貢献した。本県は日本代表選手も数多く輩出してきた。秋田工高出身で現日本協会長のナンバー8土田雅人、PR太田治、WTB吉田義人、経塚そらだ。